吉田 雅俊氏
日税ビジネスサービス
取締役社長

紹介者
山本 裕二氏
ヒューロンコンサルティンググループ
取締役社長兼CEO

Kの時代

#149

3Kは、古くは劣悪な労働環境…キツイ、汚い、危険を意味したが、現在の3Kは、今の日本が抱える問題のキーワード…環境、教育、高齢化ではないだろうか。

Kで始まる言葉を挙げてみると、心、気づき、心配り、敬愛、家庭、教育、会話、孝養、希望、公徳心、公益、高潔、規律、規範、企業社会責任、国家、国際交流、これらの言葉の中に、現代の問題解決のキーワードがあるように思う。

そして、現代の諸問題の根源は、物質主義、拝金主義、利己主義にあり、温暖化をはじめとするさまざまな環境問題も、そこに原因があると思う。

特にこれらに関しては、発展途上国以上に先進国の責任は大きい。

教育についても、核家族化、学級崩壊、誤ったゆとり教育、モンスターペアレント、学力低下等々、さまざまな問題に対して、ハードウェア（制度や仕組み）だけではなくソフトウェア（心や精神）での対応なくしては、解決はあり得ない。

高齢化問題も、医療従事者不足とその偏在化、老人介護施設および介護要員不足、老老介護、国民健康保険制度の行き詰まり、国民年金制度の破綻等がある。これも教育問題と同様の対応が求められ、まさに、心の時代、精神性が重要な時代となった。

かつて天平時代に、聖武天皇は東大寺を国分寺の総本山とし、全国に国と民衆の安寧を祈って、国分寺・国分尼寺を配した。時あたかも、権力闘争、疫病の流行、激しい政変等々10年以上にわたって激変が続いていた時代である。

東大寺は天下泰平・万民豊楽を祈願する道場であり、同時に仏教の教理を研究し学僧を養成する役目も担っていた。華厳宗をはじめ奈良時代の六宗、さらに平安時代の天台宗と真言宗を加えた各研究所（宗所）が設けられ、八宗兼学の学問寺であった。

まさに現代の大学院に相当する存在である。

奈良遷都1300年を迎え当時の世相と現代を重ね合わせて見ると極めて共通する点が多い。

現代の国分寺は、学校をはじめとする教育機関であり地方自治体ではないだろうか。

心のこもった教育と心の通った地方行政が、現代の問題解決の端緒となると私は考える。

物質文明から精神文化の時代へ、『Kの時代』の到来である。

次回は　松井 秀文氏（ゴールドリボン・ネットワーク 理事長）にご登場いただきます。